

2010年10月28日

報道関係各位

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団

日本発の生物多様性保全の概念と行動指針を提言

大学生が提案する日本ならではの生物多様性保全 『OKAGESAMA』の提言書を環境省へ提出

COP10 併催屋外展示会「生物多様性交流フェア」で世界にむけて発表

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団（所在地：東京都港区 理事長：末吉 紀雄）が主催する「コカ・コーラ学生環境サミット」（後援：環境省）は、10月28日（木）に、名古屋学院大学（愛知県名古屋市熱田区）にて開催された、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の併催屋外展示会「生物多様性交流フェア」において、日本発の生物多様性保全の概念、『OKAGESAMA』（おかげさま）とその行動指針を発表。環境省や政府への要望として、情報発信や教育、外交へ『OKAGESAMA』の概念を反映することの検討や、生物多様性問題の解決に向けた一案として、国民への迅速な普及を図ってもらうことを提言書にまとめ、環境省へ提出しました。

「コカ・コーラ学生環境サミット」では、生物多様性について議論を重ねる中で、生物多様性破壊の要因を、“生物多様性に関する一般の認知が低く、人々が生物多様性に配慮した行動をとることができていないため”と考えました。そこで、生物多様性を“人々を支えている、生きもの同士のつながり”と捉え、その保全にむけた提言として、“人々に生きもの同士のつながりへの感謝を持ってもらうこと”を策定しました。

意見提言では、人々が普段意識することの少ない、“生きもの同士のつながりと、それに生かされていることへの感謝”を喚起するため、『OKAGESAMA』（おかげさま）の気持ちを持つことを提案しています。『OKAGESAMA』は、他者から受けた恩恵への感謝を表す日本語である、「おかげさま」を基に、“生きもの同士のつながりに生かされていることへの感謝”を表すものとして考え出されました。

また『OKAGESAMA』の気持ちを持ち、生きものつながりを守る行動＝『OKAGESAMA』行動を取るための指針として、各々の人が、生きもの同士のつながり自体への理解を深めることが提案されています。提案では、『OKAGESAMA』行動につなげるために、多くの人々に生きものつながりを「学び」、「語り」、「感じ」ってもらうことを勧め、具体的な行動が例を挙げて説明されました。

そして『OKAGESAMA』の普及にむけた取組みとして、COP10終了後に「コカ・コーラ学生環境サミット」の学生たちによる、『OKAGESAMA』ネットワークが立ち上げられることが発表されました。『OKAGESAMA』ネットワークの活動では、WEBを活用した情報発信や、出前授業など、『OKAGESAMA』の普及・啓発にむけた取組みが挙げられています。

当財団では、今後も、“環境マインドを持った次世代リーダー育成”の一環として大学生を対象に企画されたコカ・コーラ学生環境サミットをはじめとする社会貢献事業の展開に努め、「心豊かでたくましい人づくり（Healthy Active Life）」を理念に、国際社会が求める環境マインドを持った青少年の育成と彼らを取り巻く地域社会を支える人材育成を目指していきます。

■ コカ・コーラ学生環境サミットが提案する“OKAGESAMA”

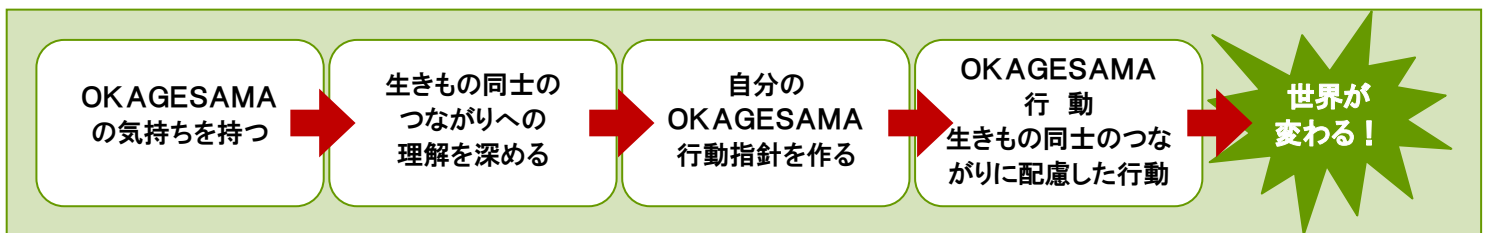
人間は“生きもの同士のつながり”の支えのおかげで生きています。生きもの同士のつながりとは、食物連鎖、共生関係などあらゆる関係のことを指します。地球上のたくさんの生きもの同士は、互いに作用し合い、絶妙なバランスを保って生きていますが、生きもの同士が作る何重ものつながりの網目に支えられて人間は生きています。そして、この何重ものつながりこそが生物多様性であると、私たちは考えます。

人間は生きもの同士のつながりに支えられていますが、多くの人たちはそのつながりを特に意識せず、感謝もしていません。その結果、生きもの同士のつながりを自らの手で壊すような暮らし方をしています。このような暮らし方を続けると、いつかは人間の生活が、物質的豊かさの低下、健康や文化の喪失、災害の脅威の増大などの危機に直面すると言われていています。

私たちは、生物多様性破壊について、生きもの同士のつながりへの意識と感謝の欠如という、個人の意識に問題の根本を見出し、自分の生活が生きもの同士のつながりに支えられていることを知り、感謝の気持ちを持つことが大切であると考えました。多くの人に私たちが生きもの同士のつながりに支えられていることを意識してもらい、実際に感謝の気持ちも持ってもらいたいと考えています。

生きもの同士のつながりに感謝する気持ちを持つための指針として、私たちは“OKAGESAMA”（おかげさま）という概念を提案します。「おかげさま」とは元々、日頃見守ってくれている人や、支えてくれている人たちに対して感謝を示す際に用いられる日本語の挨拶です。それに対し、私たちが提案する概念である“OKAGESAMA”は、「生きもの同士のつながりに生かされていることへの感謝」という新しい意味を持っています。

（“OKAGESAMA”から行動へのイメージ）



■ “OKAGESAMA”の気持ちを持つための行動指針「学ぼう！語り合おう！感じよう！」

“OKAGESAMA”の気持ちを持ったら、生きもの同士のつながりを守る行動＝“OKAGESAMA”行動を取ってほしいと考えています。“OKAGESAMA”行動は、どこに住んでいるか、どのような生活をしているかによって、行動自体は異なります。しかし、“OKAGESAMA”行動の指針が違っただけで世界中誰でも“OKAGESAMA”行動をとることは可能です。

人々が自分なりの“OKAGESAMA”行動指針を見つけるためには、まずは生きもの同士のつながり自体への理解を深めることが大切です。そのために生きもの同士のつながりを「学び」、「語り」、「感じ」てもらふことを勧めます。生きもの同士のつながりへの理解を深めると、そのつながりを守るためにどのような行動取れば良いか、正しく判断することができるようになります。

私たちは、人々が生きもの同士のつながりの保全のためにしたいこと、自分にできそうなことを挙げ、オリジナルの“OKAGESAMA”行動指針をつくってもらふことを願っています。

<総評>

環境省 参与

黒田 大三郎（くろだ だいざぶろう）氏

“OKAGESAMA”のプレゼンテーションを聞いて、「コカ・コーラ学生環境サミット」の学生たちが、生物多様性の問題の解決のために一生懸命、知恵を絞って考えてくれたことが伝わりました。現在環境省で考えていることと共通するところもあり、大変嬉しく、また、心強く感じました。提言書は、必ず環境大臣に渡します。「コカ・コーラ学生環境サミット」の20人から始まった活動が、いずれ何十億人という世界規模の活動になるよう、応援したいと思います。

国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問

末吉 竹二郎（すえよし たけじろう）氏

私たちの生活を支える生きもの同士のつながりへの感謝の気持ち、つまり“OKAGESAMA”の気持ちを持つ、という「コカ・コーラ学生環境サミット」のプレゼンテーションを聞いて、心が温かくなりました。学生たちは「おかげさま」という素晴らしい日本語に行き着いたと思います。MOTTAINAIに続く環境保全の日本語として、世界に広めていきたいと思うとともに、学生たちには、今回の意見提言を起点として、今後も活動していった欲しいと思います。

コカ・コーラ教育環境財団 常務理事

松鷹 恵市（まつたか けいいち）氏

環境省様の多大なご支援とご理解を賜り、COP10「生物多様性条約締約国会議」の熱田神宮会場、名古屋学院大学会場において、「コカ・コーラ学生環境サミット」が意見提言を実施することができたことを大変喜ばしく思います。学生たちが、生物多様性の保全という難しい課題に対しても挫けることなく、世界に向けて、自分たちのメッセージを発信することができたことを主催者として誇りに思います。



<10/28 環境省 黒田参与に意見提言書を提出>



<大学生 20 名からなるコカ・コーラ学生環境サミット>

■ 「コカ・コーラ学生環境サミット」とは

コカ・コーラ学生環境サミットとは、コカ・コーラ教育・環境財団が“環境マインドを持った次世代リーダー育成”の一環として企画したもので、6つの大学から学生が参加のもと2010年4月に発足されました。当財団では、COP10での意見提言（プレゼンテーション）をきっかけに、日本の大学生が生物多様性について共に考え、議論を深め、世界に向けて意見を発信することで、世界規模でこの問題についてリーダーシップを発揮して欲しいとの願いを込めています。

<コカ・コーラ学生環境サミット メンバー>

小塚 高広（こづか たかひろ）	慶應義塾大学 理工学部 生命情報学科
鈴木 一星（すずき いっせい）	東海大学 教養学部 人間環境学科 自然環境過程
坂巻 央（さかまき あきら）	東海大学 教養学部 人間環境学科 自然環境過程
杉山 達彦（すぎやま たつひこ）	東京大学 工学部 システム創成学科 環境・エネルギーシステムコース
服崎 耕司（ふくざき こうじ）	東京大学 工学部 システム創成学科 環境・エネルギーシステムコース
長南 安香（ちょうなん やすか）	東京学芸大学 教育学部 環境教育専攻
森岡 杏（もりおか もも）	同志社大学 法学部 政治学科
加藤 麻希（かとう まき）	同志社大学 法学部 政治学科
引地 慶多（ひきち けいた）	早稲田大学 創造理工学部 環境資源工学科

他 11 名 計 20 名

■ 財団法人コカ・コーラ教育・環境財団 概要

名 称： 財団法人コカ・コーラ教育・環境財団
英 字 名 称： The Coca-Cola Educational & Environmental Foundation
監 督 行 政： 文部科学省
許 可 日： 2007年6月25日
理 事 長： 末吉 紀雄
所 在 地： 東京都港区六本木 6-2-31
ホームページ： <http://www.cocacola-zaidan.jp/index.html>
概 要： 財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、2007年6月に37年継続していた日本コカ・コーラボトラーズ育英会と14年継続していたコカ・コーラ環境教育財団の事業を継承し、一元的に運営、推進できる母体として設立されました。心豊かでたくましい人づくり（Healthy Active Life）を理念とし、環境教育、教育支援、スポーツ教育を柱とした貢献事業を企画、提供することにより、国際社会が求める青少年の育成と、彼らを取り巻く地域社会を支える人材の育成を通じ、豊かな国際社会の形成及び国際親善に寄与することを目的に多様な事業を展開しています。